

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア



中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

今月のトピック

財政再建を目指すマレーシアの消費税

日本では、2014年4月に消費税が引き上げられることがすでに決定していますが、財政健全化を目指すマレーシアでも、2015年4月から消費税に相当する物品・サービス税（税率6%）が導入されることになりました。これに伴って、ぜいたく品など特定の物品やサービスに対して課せられる現行の販売税およびサービス税を廃止し、生活必需品も含め幅広く課税する物品・サービス税に一本化されることとなります。

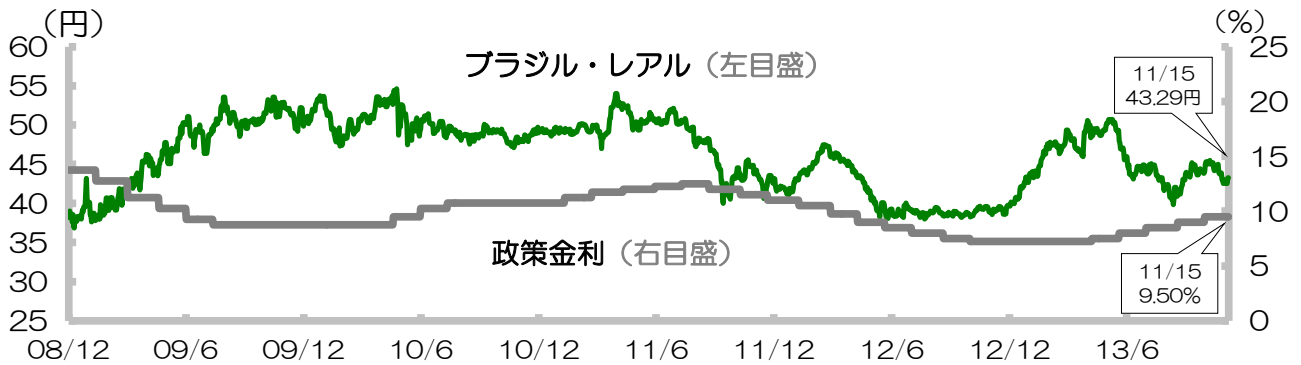
マレーシアの政府総債務残高は2012年末にはGDP比で55.5%（IMF Oct.2013）に達し、ASEAN諸国の中では極めて高い水準にあります。同国首相は「財政健全化のためには物品・サービス税の導入が不可欠であり、先進国はすべて導入している」と強調しました。マレーシアの財政悪化は、景気浮揚のため公共事業や補助金を大盤振る舞いしたことも原因とみられ、首相は補助金の段階的な削減にも言及しました。ちなみにマレーシアでは、2005年と2009年にも消費税の導入を図りましたが、国民の強い反発を受けて導入を見送っています。首相は、2013年5月の下院選挙で過半数を獲得して政権を維持し、10月には与党役員選挙で再選され、政権の足固めをした上で財政・構造改革を推進しようとしています。しかし、今回も、増税と補助金削減は国民生活を圧迫するとして労働団体が抗議集会を開催するなど導入反対の動きがみられ、発表通り2015年4月から導入できるかどうかは不透明な状況です。



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアル一旦は上昇するも、米国雇用統計などを受けて反落～
 米国の債務上限問題の暫定合意や量的緩和政策の縮小開始時期が2014年1～3月期に後ずれするとの見方を受けて、ブラジル・レアルは一旦は買い戻され上昇しましたが、その後は国内の経済指標に対する失望感や、米国雇用統計が市場予想に対して良好だったこと、米国金利が上昇したことなどを受けて反落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは戻りを試すも、上値は限定的か～
 景気については、経済的な結びつきの強い中国および欧州では景気は底入れしたとみられますが、両地域とも急回復は望めず、回復ペースは緩やかなものとみられます。ただ、自動車生産など鉱工業生産が減速し、基礎的財政収支も大幅に悪化するなど、懸念材料がみられます。インフレについては高止まりしているものの、これまでの金融引き締め政策の効果から、2014年始めにかけて低下が続くとみられています。ブラジル・レアルは、通貨防衛策、利上げ観測、直接投資資金の流入などから戻りを試す展開になると考えられますが、米国の金融政策を巡る先行き不透明感などから、上値も限定的とみられます。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは景気減速から下げる場面があったものの、その後は上昇～
 メキシコでは各種経済指標を受けて景気減速感が強まりました。このため政策金利は0.25%引き下げられました。メキシコ・ペソは米国の債務上限問題の暫定合意、量的緩和政策の縮小開始時期の2014年への後退観測などから下げ止まり、その後は利下げの実施や米国金利の上昇を受けて下げる場面もありましたが、米国では次期FRB議長が量的緩和政策の必要性を指摘したことから上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは利下げ打ち止め示唆で下値不安は後退か～
 景気は減速しているものの、底打ちは近いとみています。鉱工業生産などに減速がみられましたが、主要産業である自動車は輸出などで好調を維持しており、日本の大手自動車会社による追加的な投資も発表されています。海外就労者からの送金額は前月比では減少しているものの、前年同月比では増加がみられました。メキシコ・ペソは、米国の金融政策に対する先行き不透明感が強い一方、中央銀行が利下げ打ち止めを示唆していることもあり、下値不安は後退しつつあるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～ トルコ・リラは一旦上昇するも、政策金利据え置きなどから下落 ～
 トルコ・リラは、米国における債務上限問題の暫定合意を受けた買い戻しから上昇する場面がありました。しかし、10月下旬以降インフレ率が高止まっているにもかかわらず、景気への配慮から利上げが実施されなかったことから下落し、対米ドルでは9月の安値近くまで下げました。その後は、米国で次期FRB議長が量的緩和政策の必要性を指摘したことから値を戻しています。

【当面の金利・為替の見通し】～ トルコ・リラは下値不安が後退するも、上値の重い展開か ～
 景気については、鉱工業生産が大幅に改善しました。個人消費関連の経済指標も小幅ながら持ち直してきており、景気は回復が続いているとみられます。政策金利については景気への配慮もあって据え置かれるとみられますが、インフレ率の高止まりが続いていることから、コリドー金利の調整による引き締めが続くとみえています。トルコ・リラは下値不安は後退していますが、経常収支の改善が一服したこと、米国の金融政策に対する先行き不透明感が強いことなどから上値の重い展開が続くとみえています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～ 南アフリカ・ランドは上昇後は軟調な展開 ～
 南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、米国における量的緩和政策の縮小開始が見送られるとの観測などを受けて上昇する場面がありました。その後は財政および貿易赤字が拡大したこと、製造業生産が市場予想を超える減少となったことなどから軟調な展開となりましたが、米国で次期FRB議長が量的緩和政策の必要性を指摘したことから値を戻しています。

【当面の金利・為替の見通し】～ 南アフリカ・ランドはレンジ内での推移か ～
 景気については、製造業生産が減少する一方、製造業PMIは景気判断の節目となる50を回復しました。また小売売上高は市場予想を下回りました。当面のインフレ率はターゲットの上限近辺で推移するとみられます。準備銀行は景気や物価動向を勘案し、政策金利を据え置くとみえています。南アフリカ・ランドについては、恒常的な財政赤字、高水準にあるインフレなどが通貨安要因と考えられますが、相対的に高い金利水準に加えて貿易統計の集計方法変更による赤字傾向の改善が見込まれることから、レンジ内で推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは大幅に反発するも米国雇用統計後には反落～

オーストラリアでは政策金利は据え置かれました。オーストラリア・ドルは米国の債務上限問題の暫定合意や、自国では利下げが見送られたことなどから反発しましたが、米国の雇用統計の内容が市場予想に対して良好だったことから反落し、小幅の上昇にとどまりました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは底堅いが、上値も重いか～

景気については、雇用の回復が遅れているものの、個人消費や住宅市場、景況感などは改善しており、インフレが中期の目標値に収束するなど、全体的には良好とみられます。ただ資源開発投資に代わる経済のけん引役が不在で、当面は緩やかな成長にとどまるとみえています。政策金利については、準備銀行が自国通貨の下落が有効と考えており、利下げの可能性も残るとみえています。オーストラリア・ドルは、下値不安は後退していますが、米国の金融政策に対する不透明感などもあり、底堅いが上値は重いとみえています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは市場予想に対して良好だった雇用統計などから上昇～

準備銀行は政策金利を据え置いた政策会合後に、インフレ圧力の高まりから2014年には利上げが必要になるとの見方を示しました。ニュージーランド・ドルは、中国短期金利の急騰に対する警戒感に加えて、準備銀行総裁が自国通貨高に対する懸念を表明したことから下落する場面もありましたが、その後は雇用統計が市場予想に対して良好だったことなどを受けて上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは上値の重い展開か～

消費者物価の動きは落ち着いており、景気は順調な回復傾向にあるとみられます。準備銀行は住宅市場の過熱感に対して懸念を表明しており、政策金利については今後は徐々に引き上げが視野に入ってくるとみられます。これに加えて同銀行は自国通貨高に対しても懸念を表明しており、ニュージーランド・ドルは上値の重い展開が予想されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは、対円で上昇～

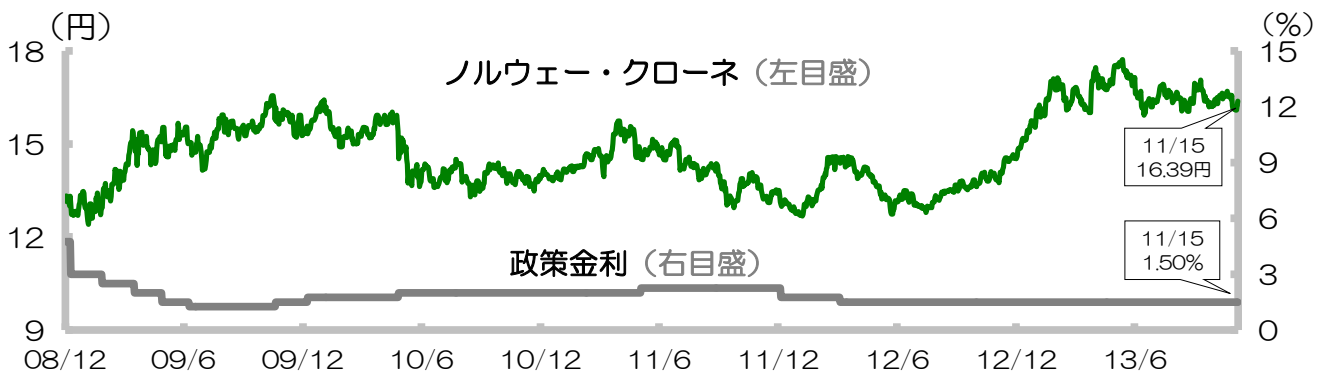
カナダでは政策金利が据え置かれ、中央銀行の声明においてこれまで言及されていた将来の利上げの可能性に関する文言が削除され、替わってインフレ率の下振れの可能性が指摘されたことから、カナダ・ドルは下げました。その後は良好な経済指標が発表されたことに加えて、米国で次期FRB議長が量的緩和政策の必要性を指摘したことなどもあり、上昇しました。長期金利は、米国の量的緩和政策の縮小開始時期を巡る思惑などから、ほぼ往って来いの動きとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは底堅く推移か～

インフレ率が中央銀行の目標水準の下限近くで推移し、失業率は落ち着いていることから、当面は政策金利の引き上げが見送られ、現行水準が維持されるとみています。カナダ・ドルと長期金利はともに、引き続き米国の経済指標や金融政策を巡る観測の影響を受けやすく、神経質な展開が続くとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは上昇した後、ユーロに連動して下落～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、米国では量的緩和政策の縮小開始が見送られるとの観測などに加えて、鉱工業信頼感や小売売上高が市場予想を上回ったことなどから、10月下旬にかけて堅調でした。その後はユーロ圏消費者物価指数が低下したことやECBによる予想外の利下げを受けて下落したユーロに連動して下げました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内での推移か～

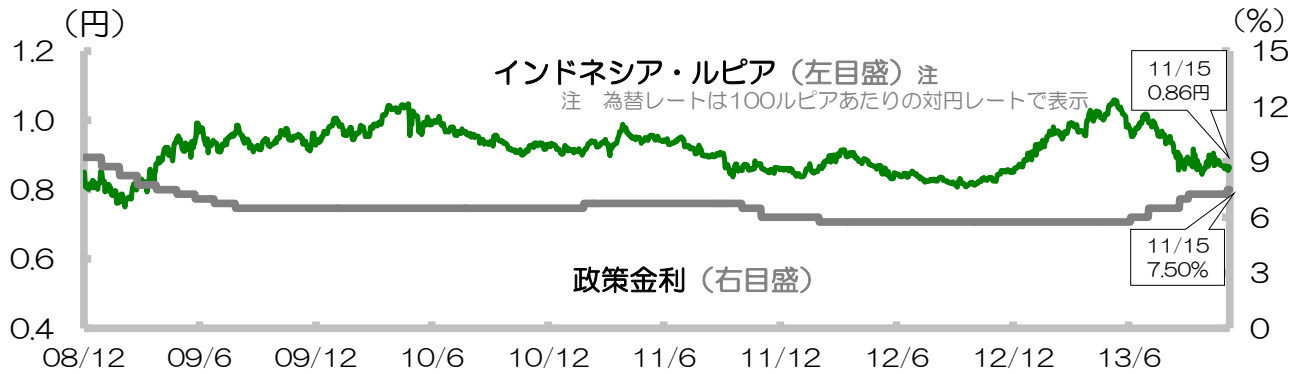
景気については、製造業PMIが市場予想を上回る伸びとなり、鉱工業生産は前月のマイナスからの持ち直しがみられました。中央銀行は政策金利を据え置く際に、貿易相手国間では経済成長率が低いことや家計部門の需要が想定よりも若干弱いことを指摘しており、当面は政策金利の変更はないとみています。ノルウェー・クローネは、利下げが実施され既に上昇一服となっているユーロとともに弱含む可能性があります。恒常的な財政・貿易黒字が下支え要因になるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは軟調な展開 ～

消費者物価指数は+8.32% (前年比)と市場予想を下回り、インフレ圧力は一般しています。貿易収支については市場予想に反して再び赤字となりました。7～9月期の実質GDP成長率は+5.62% (前年比)とほぼ市場予想並みでしたが、2010年以降では最も低い伸びとなりました。中央銀行は11月の定例会合でインフレ抑制を目的として、市場予想に反して政策金利を0.25%引き上げました。インドネシア・ルピアは軟調な展開が続いています。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは、一段安の可能性も残る ～

中央銀行は、経済成長よりもインフレ抑制を重視して政策金利の引き上げを行いました。貿易赤字の動向に加えて市場予想に反して増加した輸入が警戒される中、金融政策については引き締め姿勢を維持する方針とみられます。インドネシア・ルピアは、追加利上げ観測が下支えする展開が予想されますが、対外収支の悪化が懸念されることなどもあり、下落の可能性も残っています。



中国



【足元の金融市場の動き】～ 中国・人民元は対ドルで一時最高値を更新 ～

中国では、10月の製造業PMI (政府発表)が年内での最も高い数値となりました。大都市の住宅価格には過熱感もみられますが、全体としては景況感が改善しつつあるとみられます。これらのことを受けて中国・人民元は上昇し、対米ドルでは2005年以降の最高値を更新する場面がありました。

【当面の金利・為替の見通し】～ 中国・人民元は底堅く推移か ～

中国共産党の重要なイベントである「三中全会」が閉幕しました。公表内容については概ね事前予想通りで具体性に欠けるものとなりました。経済指標については欧米の景気回復を背景に改善傾向にあります。ただし、シャドーバンキング問題への懸念が完全に払拭されたわけではなく、中央政府による地方債務の精査の結果を踏まえて、今後の財政制度、土地譲渡制度、金融規制などの見直しが進むとみられています。中国・人民元は堅調な経済指標を背景に底堅く推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。